

林業福島

No. 737

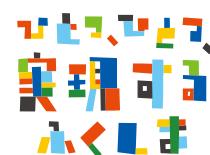
題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



1

2026

監修■福島県農林水産部
表紙の写真■未来の宝物





共に創る福島の未来

福島県知事

内 堀 雅 雄

謹んで新年の御挨拶を申し上げます。

震災と原発事故から間もなく十五年の節目を迎えるとしております。この間、県民の皆様の懸命な御努力と国内外からの温かい御支援により、福島県は着実に復興への歩みを進めてまいりました。

昨年は、全国新酒鑑評会において、三年振りに金賞受賞数日本一に返り咲いたほか、東京二〇二五デフリンピックでは、本県復興のシンボルであるJヴィレッジにおいてサッカー競技が開催されるなど、明るい話題が続きました。

また、大阪・関西万博などを契機として、本県の復興状況や様々な魅力を国内外に広く発信することができました。

このような中、避難地域では、特定帰還居住区域において、除染等が進められているほか、震災後、五五の国・地域で行われていた県産農林水産物の輸入規制が五つの国・地域にまで減少するなど、これまで続けてきた挑戦の成果が目に見える形となつて現れております。

一方で、原子力災害に伴う様々な課題に加え、急激に進む人口減少など、いまだ複雑で困難な課題が山積していることから、今後も本県の復興・再生と「福島ならでは」の地方創生の実現に向け、全力で挑戦を続けてまいります。

まず、震災と原発事故からの復興・再生につきましては、令和八年度から第三期復興・創生期間がスタートします。このため、避難者の帰還や生活環境の整備、産業・生業の再生、風評の払拭と風化の防止などに取り組むとともに、復興の進捗に伴つて生じる新たな課題やニーズにもきめ細かく対応してまいります。

また、地方創生、すなわち人口減少対策につきましては、昨年、「ふくしま共創チーム」を設立したところであり、オールふくしまで共に考え、共に挑戦することにより、持続可能で豊かなふくしまを目指してまいります。

今年は、福島県が誕生して一五〇年という本県にとって非常に重要な年です。

この節目の年に開催する、「ふくしまデステイネーションキャンペーン」や「大ゴッホ展」を通じて、国内外の多くの方に復興が進む「福島の今」と本県の魅力を「見て」「触れて」「感じて」いただけるよう準備を進めてまいります。

今後も、県民の皆様と共に、挑戦を続けてまいりますので、一層の御支援、御協力をお願い申し上げ、新年の御挨拶といたします。

《もくじ》

とびら

共に創る福島の未来

福島県知事 内 堀 雅 雄 1

新春特集

生産性の向上に向けた高性能林業機械の活用 2 ~ 4

森林・林業の復興に向けて国へ緊急要望 5

第10回福島県きのこ料理コンクールを開催 6

林業アカデミーふくしま研修日誌⑧ 7

普及指導員通信 8

森林管理署メモ 9

公社だより 10

木の文化を育む② 11

木材市況・ふくしま東西南北 12

はなしのひろば・お知らせコーナー 13

**新特
春集**

生産性の向上に向けた 高性能林業機械の活用

福島県林業労働力確保支援センター

◎はじめに

林業における機械化の進展は、労働生産性の向上、生産コストの削減、労働強度の軽減などに大きく貢献するものです。戦後植栽された人工林資源の成熟に伴い、木材生産量の拡大と林業の収益性の向上を通じて、林業を産業として再生することが求められています。

福島県林業労働力確保支援センター

ターチーが平成二年から平成二十五年までに行つた林業機械貸付事業では、県内の林業事業体に五年間で一〇〇台の高性能林業機械を整備しています。その効果もあって、本県の高性能林業機械の保有台数は、令和五年度現在、七二三台で、全国二位の保有台数を誇ります。しかし、労働生産性をみるとまだその優位性を十分に活かしてはおらず、その要因には森林作業システムがうまく機能していない状況があります。

そこで、今回は、当支援センターが林業事業体改善計画及び改善措置実施状況報告を通して得られた情報

業システム「森林作業システム構築の基本」」を参考に記載しました。

◎高性能林業機械とは

高性能林業機械とは、従来のチエーソーや刈払機等の機械に比べて、作業の効率化、身体への負担の軽減等、性能が著しく高い林業機械です。

主な高性能林業機械として、フェラーチャー、ハーベスター、スキッダ、フォワーダ、タワーヤーダ、スイングヤードなどがあります。（図-1）



図-1 高性能林業機械（林野庁HPより）

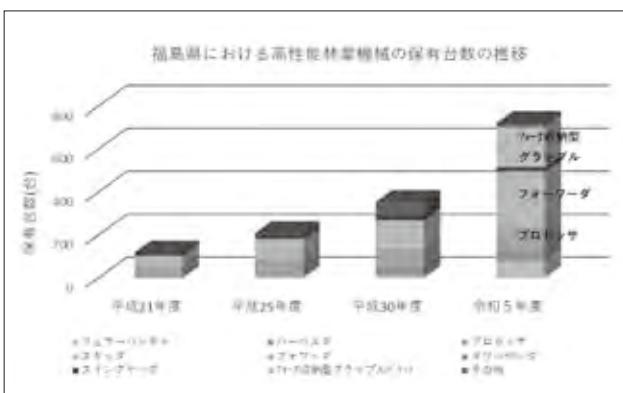


図-2 保有台数の推移（令和6年森林・林業統計書）

◎本県における高性能林業機械の保有状況

本県における高性能林業機械の保有状況は、震災前（平成二三年度）は、一七四台でしたが、令和五年度には、七二三台となり、震災前と比べ約四倍に増加しています。全国的にみると保有台数が一番多い県は、宮崎県の九七三台で、二番目が多いのが本県です。主な内訳は、フォワーダ二四四台、プロセッサ一二三台、フォーカ取納型グラツブルパケット一八七台となっています。（図-2）



図－3 作業システム例（林野庁HPより）

森林作業システムとは、木材生産現場における、作業と機械と人の有機的な組合せで、立木の伐倒（伐木）、林道端や土場への搬出（集材）、枝払・玉切（造材）、トラック積込みまでの一連の作業プロセスです。これらは、機械の選択や配置等で様々な選択肢があり、その工程の順番は、機械の選択やシステムの構築は、それぞれの事業体の経営判断に基づくとともに、経営規模に応じて無理・無駄が無く合理的であることが重要です。したがって、事業体によって最適なシステムは必ずしも同じではなく、事業地の状況

によつても異なるものとなります。
作業システムは、伐倒した木を森林作業道や林業専用道まで集材する方法により、グラップルや单胴ウインチによる車両系とタワーヤード、集材機等を使用する架線系に大別されます。本県では車両系作業システムが主流です。

車両系作業システムの中でも、現在一般に行われている車両系作業システムは、伐木がチエーンソー、木寄がグラップル、造材がプロセッサ、集材がフォワーダです。

本県においては架線系による作業システムは限られているため、今回は主流である車両系の作業システムについて報告します。

◎ 森林作業システムの検討

現場技能者には、集約化された現場から効率的に木材を生産できる森林作業システムを検討し、作業を実施することが求められます。

車両系の森林作業システムは、木材距離が短いことから、比較的高い路網密度が要求されます。架線系は急傾斜地など路網整備が困難で路網密度が低くなる現場や架線の架設・撤去の手間を考慮しても車両系よりも高い生産性が確保できるような条件の現場で採用されます。

林地傾斜は路網計画に密接に関連

することから、森林作業システムも林地傾斜と路網計画に密接に関連しています。

で多くの木材を生産することが重要です。

◎ 森林作業システムによる労働生産性の向上

労働生産性を向上させるためには、この森林作業システムを効率化し、労働生産性の作業の遅れの原因となる問題に対処していく必要があります。

◎ 労働生産性とは

労働生産性とは、作業効率の程度を表した指標のことで、木材生産を実施する現場の状況（現場条件、作業方法、機械特性）により労働生産性は大きく異なることから、各事業地や他の事業体と比較して一律に評価するために用いるものではなく、作業システムの改善目標として活用することが重要です。

例えば、木材生産の労働生産性は、木材の生産量（立方メートル）と木材生産に投入した人工数（人日）で求めることができ、この場合、一人一日当たりの生産量（立方メートル／人日）で表されます。

◎ 労働生産性の向上

実施状況報告書では、それぞれの事業体における労働生産性が報告されています。労働生産性の向上に向けた取組では、各事業体とも高性能林業機械の導入等をあげており、高性能林業機械への期待が高くなっています。

図－4に、令和二年度と令和六年度における主伐と間伐における労働生産性を示しました。

◎ 林業事業体改善計画からみた労働生産性

林業事業体改善計画は、林業労働者を雇用して、造林、保育、伐採、その他の森林整備を行い、改善計画を履行する意欲と能力を有する事業主が、「福島県林業事業体改善計画認定要領」に基づき「雇用管理の改善と事業の合理化についての計画」（改善計画・五年間）を作成・申請し、県知事の認定を受ける計画です。

○ 改善措置実施状況報告書

改善措置実施状況報告書は、改善計画期間中の実施状況を毎年報告していただいているものです。

○主伐における労働生産性

本県の認定事業体八八事業体のうち六三事業体からの集計では、令和六年度の主伐実績が最大で四万立方メートル、最小で二〇〇立方メートル、平均で六、七五七立方メートルでした。

主伐における令和二年度の労働生産性は、最大で一六・四一立方メートル／人日、最小が一・〇〇立方メートル／人日、平均が六・四五立方メートル／人日でした。

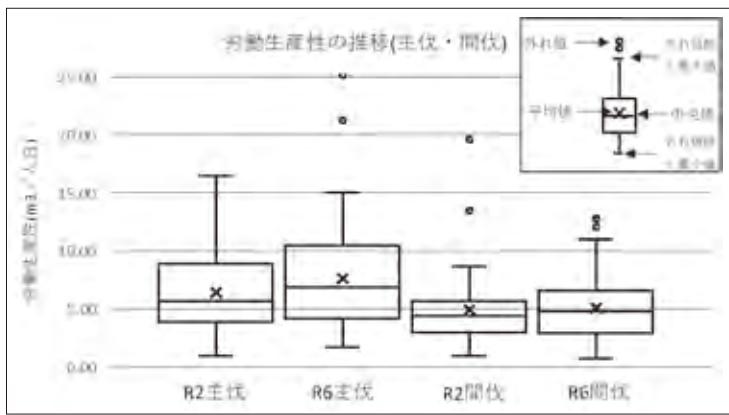


図-4 主伐及び間伐の労働生産性の推移

令和六年度の労働生産性は、最大で二五・一六立方メートル／人日、最小が一・七一立方メートル／人日、平均が七・六三立方メートル／人日と、なにかかわらず向上を図ることから、さらに向上を目指す必要があります。

○間伐における労働生産性
令和六年度の間伐の実績は、六四事業体の集計では、最大で二一、九二九立方メートル／人日、最小で一五立方メートル／人日、平均が四・九四立方メートル／人日でした。

間伐における令和二年度の労働生産性は、最大で一九・五七立方メートル／人日、最小が一・〇〇立方メートル／人日、平均が四・九四立方メートル／人日でした。令和六年度における労働生産性は、最大が、二二・七九立方メートル／人日、最小が〇・七五立方メートル／人日、平均が五・一〇立方メートル／人日でした。五年前に比べ労働生産性が向上しています。国においては、間伐の労働生産を令和十二年度までに八立方メートル／人日とする目標を設定しています。間伐の生産性は主伐に比べ低くなる傾向がありますが、効率よく作業システムを行うことで生産性を上げることが重要です。

このほか、植付や下刈の労働生産

立方メートル／人日となっています。事業体によって差がありますが、五年前に比べ労働生産性が向上しています。国における令和五年の結果では、主伐の労働生産が平均で八・一立方メートル／人日で、令和十二年度までに一立方メートル／人日とする目標を設定していることから、さらに向上を目指す必要があります。

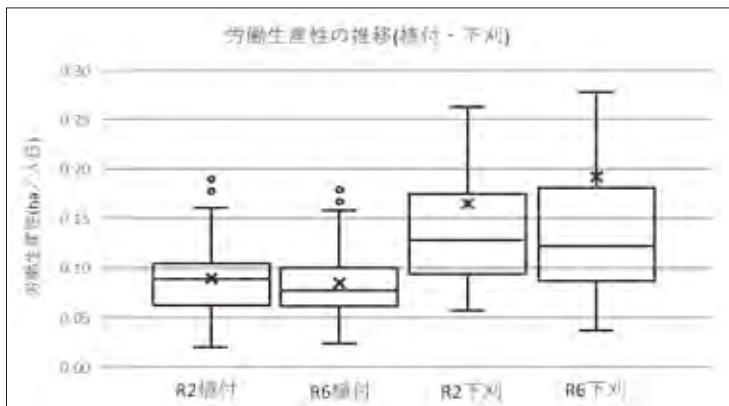


図-5 植付及び下刈の労働生産性の推移

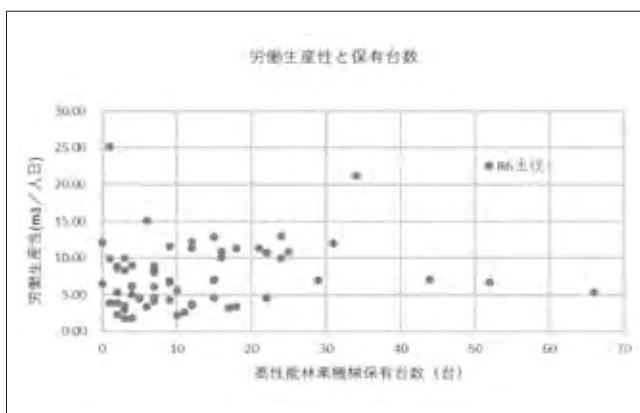


図-6 労働生産性と高性能林業機械保有台数

性が、植付では令和二年度の平均が〇・〇九立方メートル／人日、令和六年度が〇・〇八立方メートル／人日、下刈では令和二年度が〇・一九立方メートル／人日と、なかなか労働生産性が上がらない作業種となっていました。(図-5)

○終わりに

労働生産性と高性能林業機械保有台数の関係(図-6)では、高性能林業機械の保有数と労働生産性の高さは必ずしも一致していませんでした。

○終わりに
労働生産性と高性能林業機械保有台数の関係(図-6)では、高性能林業機械の保有数と労働生産性の高さは必ずしも一致していませんでした。今後も、当支援センターでは、労働生産性の向上に向けた取組を支援して参りますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

た。いかに有効な森林作業システムを構築するかが、労働生産性の向上に繋がるものと考えられます。なお、作業システムと生産性の向上については、林野庁が制作した「生産性向上ガイドブック～生産性の高い林業の確立に向けて～」及び「路網を活かした森林作業システム～森林作業システム構築の基本～」に詳しく紹介されていますので参考にしてください。

森林・林業の復興に向けて 国へ緊急要望

福島県林業会議

県内の森林・林業関係十団体で構成する福島県林業会議は、令和七年十二月八日、東日本大震災からの森林・林業の再生に向け、復興庁と林野庁、財務省に要望活動を行いました。

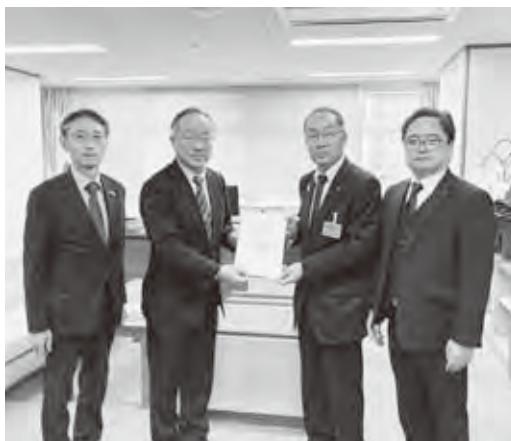
同会議では、これまで復興・創生に係る新たな課題について継続して取り組めるよう要望活動を展開してまいりましたが、今回は、令和八年度からスタートする「第三期復興・創生期間」において、「ふくしま森林再生事業」を始めとした放射性物質対策及び放射性物質の影響に応じた森林整備等の推進や林業・木材産業の復興に向けた支援などを必要な事業の継続とともに、通常事業への移行を見据え、本県予算枠を十分に確保するよう要望しました。

山野謙復興庁事務次官、小坂善太郎林野庁長官お二方とも、本県の課題を共有するとともに、要望内容をしっかりと受け止め、復興のステージに応じた支援ができるよう必要な事業予算の確保に努力する旨発言いたしました。

また、財務省宮下賢章主計官からは、森林整備ガイドラインに基づく事業展開に向け具体的に動き出せるよう林野庁と十分協議するとの発言をいただきました。



林野庁にて、中央が小坂善太郎長官



復興庁にて、左から風間良一県木材協同組合連合会会長、山野謙事務次官、田子英司県森林組合連合会会長、飯沼隆宏県森林・林業・緑化協会専務理事

ふくしまの森林・林業の復興に向けた緊急要望項目

1 第3期復興・創生期間における施策の拡充と予算の確保

第3期復興・創生期間における必要な事業の継続と新たな課題への対応を含む事業の拡充これら事業に必要な予算の確保と地方財源措置

2 放射性物質対策と森林整備等の推進

- (1) 「ふくしま森林再生事業」を始めとした各種復興施策に係る事業の拡充と予算の確保、帰還困難区域を含む森林整備作業実施に向けたガイドライン策定
- (2) 帰還困難区域などの森林整備、木材利用を進めるためのビジョンの提示と必要な支援及び風評被害防止のためのリスクコミュニケーション
- (3) 帰還困難区域の森林整備を進める上で林道事業や住民帰還に必要な治山事業のための予算の確保

3 林業・木材産業の復興に向けた支援

- (1) 丸太、製材品の放射性物質濃度調査、木材の安全確保に要する検査、樹皮の処理・活用等、放射性物質対策の拡充支援
- (2) きのこ原木、おが粉など生産資材の調達を支援する事業の継続
- (3) きのこ原木林再生を図るための「広葉樹林再生事業」の伐採材の利活用
- (4) 原木しいたけ露地栽培の生産再開への支援強化と経営指標作成に向けた取組
- (5) 山菜・野生きのこのモニタリングや出荷制限解除に向けた取組の継続
- (6) 段階的に復興事業から通常事業に移行を進めるための本県予算枠の確保

第十回福島県きのこ料理コンクールを開催

公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
福島県きのこ振興協議会

令和七年十一月十五日（土）、郡山市安積総合学習センターにおいて「第十回福島県きのこ料理コンクール本審査会」を開催しました。

同コンクールは、食用きのこについての正しい知識とその利活用の普及啓発により、きのこ産業の振興を図ることを目的としており、福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部の後援をいたり開催しました。応募総数は一六二点（うち高校生七八点、大学生七六点、専門学校生四点、一般四点）となり、最優秀賞である県知事賞は規定により一点の選出となりました。



歌川千慧さん 県知事賞受賞作品
「～ふくしま香る～しいたけの肉巻きおろしソース添え」



調理審査

当協会が委嘱した五名の審査員により、十月十四日に書類による一次審査を、十一月十五日には調理の実技を伴う本審査を行い、六名の方の入賞が決定しました。全参加者が規定時間となる一時間以内に作品を仕上げました。審査員からは、それぞれ皆さんの考える視点があつて非常に参考になった。たくさんの人にお勧めしたい料理ばかりだった。皆さんのが美味しい作品を頂けて大変幸せな気持ちだった。皆さんのが経験したことはすごく重要で、今後に活かされるよう皆さんそれぞれにテーマを持ち、テーマに沿つ



第10回福島県きのこ料理コンクール

主催：（公社）福島県森林・林業・緑化協会、福島県きのこ振興協議会
後援：福島県、福島県森林組合連合会、全国農業協同組合連合会福島県本部

記念撮影

て活動していくともっと素晴らしいものが出てくるのではないかと思うと評価していました。また、福島県産のきのこについて家族も一緒にあって情報をチェックするなど材料選びにおいても参加者それぞれの個性があり、その素材を美味しく調理して提供しようとすると姿に参加者の皆様のきのこ料理への想いを感じました。その姿に日々、料理と向き合う姿勢と技術向上に努力していることを察しますとともにご指導された先生方のご尽力に感謝申し上げます。入賞作品のうち一作品を、令和八年三月十八日に東京都で開催される第三八回きのこ料理コンクール全国大会へ福島県代表として推薦することとなります。

受賞者一覧

	作 品 名	氏 名	職 業
県知事賞	～ふくしま香る～しいたけの肉巻きおろしソース添え	歌 川 千 慧	郡山女子大学短期大学部
優 秀 賞	うまみたっぷりきのこの塩チャプチエ	遠 藤 美 樹	郡山女子大学短期大学部
	きのこたっぷり鮮やかキッシュ	片 山 千 愛	福島県立川口高等学校
特 別 賞	エリンギときのこクリームのミルフィーユ	濱 尾 莉 来	郡山女子大学附属高等学校
奨 励 賞	きのこと自身の高野詰め	伊 東 妃 由	郡山女子大学附属高等学校
	ふくふくきのこでそばロール	室 井 つな子	一般

林業アカデミーふくしま研修日誌(8)



○研修生の感想
石川 滋(いしかわ しげる)

○十一月の研修内容

十一月は、十二月の作業道作設実習に向けて、路網の縦断・横断測量と図面の設計を行いました。また、架線集材では実際に架線を張つて作業している現場で操作をさせていただき、計十五日間の実習が終了しました。

●森林・林業に関する幅広い「知識」の習得

【現場管理の基礎】

森林所有者への施業提案や現場のマネジメントに必要となる工程管理やコスト計算、現場管理の考え方を学びました。

●森林施業「技術」の習得

【縦断・横断測量】

森林作業道を設計するための縦断・横断測量について、一週間かけて学びました。山の傾斜や土砂の切れ盛りなど道を通すために必要な知識を身につけ、図面上で路網の設計を行いました。その後、現地踏査で実際の山の斜面の勾配や土質など、現場に出ないと分からぬ要素がたくさんあることを実感しました。

【林内路網】

森林作業道を設計するための縦断・横断測量について、一週間かけて学びました。山の傾斜や土砂の切れ盛りなど道を通すために必要な知識を身につけ、図面上で路網の設計を行いました。その後、現地踏査で実際の山の斜面の勾配や土質など、現場に出ないと分からぬ要素がたくさんあることを実感しました。

【高性能林業機械運転技術】

十二月以降の現場実習を目指し、

二班に分かれバックホウとグラップル、フォワーダの操作練習を行いました。

【チェーンソー伐木造材技術】

スギ林の間伐実習を行いました。小径木の伐採ではくさびを打つ隙間がないことや、重きがないことで倒れる勢いがなく、掛かり木になることがあります。小径木ほどミスが許されないので、油断せず慎重に伐倒を行いました。

【つる切り、除伐、枝打等】

十四～十五年生のスギ林のつる切りと除伐の実習を行いました。雑灌木や生育不良のスギの選木や、手ノコを使つたつるの除去方法について学びました。

●資格の取得

【架線集材】

林業架線作業主任者免許の規程に定められた講習の最後の実習として、実際に作業している現場の集材機をお借りし、操作実習を行いました。

【玉掛け技術】

ワイヤーを使った木材の荷掛けに必要な玉掛け技能講習を受講しました。安全な作業をするために、吊り上げる荷の重さとそれに耐えうるワイヤーの選定などを学びました。



FRDを用いた路網設計



つる切り

直結する実習が増えました。十一月中旬に行われた森林作業道づくりに関する研修では、生産性を高めるために路網設計がいかに重要なことを教えていただきました。その中で目的樹種でも生育不良や周囲の状況によっては除伐の対象になり、その時点では正解が分からることもありますが、根拠をもつて判断することが必要だということも学びました。

丁寧な作業が一本一本の木の生育を助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

際に現場を測量し図面を作成したか

感しました。

また、つる切り・除伐研修では、

丁寧な作業が一本一本の木の生育を

助け価値を高めることにつながることを教えていただきました。その中

かを踏まえ、机上設計から現地踏査

を行い、それを受けて設計を修正し

図面を作成しました。特に傾斜地で

のカーブについては、縦断勾配や曲

線半径を十分考慮しなければならず

苦労しました。

その後のQ-GIS、FRDを使用したPC上で路網設計では、実

二班に分かれバックホウとグラップル、フォワーダの操作練習を行いました。

二

普及指導員通信

広葉樹における採材研修会の開催

福島県県北農林事務所

林業普及指導員 小 柴 遥

1 はじめに

福島県では「広葉樹林再生事業」により、原発事故で伐採が停滞するきのこ原木林等の更新と、放射性物質の継続的な調査が行われています。事業の実施に伴い、コナラなどの小中径材の出材が増えることが見込まれています。

また、近年、広葉樹材については、海外における資源の減少や円安の影響等により外材価格が高止まりの傾向にあります。一方、広葉樹に対する根強い人気や新たな用途の開発等により、国産の広葉樹材が全国的にも注目を集めています。

こうした中、これまでパルプ・チップ用の低質材として、ひとくくりに扱われてきた広葉樹材の中にも、一般材として流通するものが含まれている可能性があり、需要に応じた採材がますます重要になるものと考えます。

そこで、今回の研修では、主に広葉樹林再生事業の事業主体である市町村と事業を請け負う林業事業体を対象として、広く広葉樹材に関する知識を深めてもらうため、原木市場において商品としての採材の留意点を研修するとともに、事業の現場において実際に立木や伐倒木を見ながら販売に有利な採材方法の検討を行いました。

2 研修会の内容

(1)原木市場での販売材の見学、採材の留意点

国産広葉樹材も広く取り扱う南東北木材株式会社に講師及び研修場所の提供をいただき、節・枝跡や割れ、曲りの程度等により、価格に影響することや、広葉樹では基本的に2.2mにのびをつけた長さでの需要が多いことなどの説明がありました。

どこが良い評価に繋がるのか、同じような規格の材で評価の違いはどこででるのか、どういった材が求められているのか等、実際に販売された材を見ながら具体的な説明を聞くことで、認識を深めることができました。

(2)事業現場における採材方法の検討

現地では伐倒されたナラ3本について3班に分かれて末口径や樹高、曲り等を確認しながら採材方法について検討し、代表者に発表をしてもらいました。様々な意見が出る中、講師より買方の需要を踏まえた意見をいただき、販売に有利な採材方法について検討しました。実際に伐倒された木を見ながら、この状態の枝なら切り落とせば材にできる、上の方が直材ならばいいところから2.2mを切り出して間は調整箇所にする等のテクニックについてお話を伺うことができました。

3 おわりに

広葉樹の特性上、用材として市場に出す際にまとまった材積を確保するのが難しいことや、補助事業で実施する際には工期との兼ね合い等の様々な課題はありますが、今回の研修を通して広葉樹の採材について意識していただける機会となったと思います。

今後も広葉樹材の活用事例や市場での販売状況等について、現場で作業する方々へも情報共有をしていきたいと思います。



採材方法の検討の様子

森林管理署メモ

棚倉森林管理署管内

におけるナラ枯れ 被害と対策

棚倉森林管理署



図1. カシナガの穿入により生じたフ拉斯

カシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」という。）が媒介するナラ菌に起因してミズナラやコナラが枯死する「ナラ枯れ」による森林被害は、深刻な状況になっています。令和6年度の福島県内におけるナラ枯れ被害量は前年度比一八五割となる約二万一千立方メートルとなり、これは日本全体でワースト三位となっています。

当署管内（棚倉町、塙町、矢祭町、鮫川村）ではこれまでナラ枯れ被害は確認されていませんでしたが、令和6年、矢祭町内の茨城県境付近の山林と同町内の滝川渓谷の二か所で初めて被害が確認されました。

ナラ枯れのメカニズム
ナラ菌を保有しているカシナガが

産卵のためナラやシイの幹に穿入することで蔓延することにより、樹木内の細胞が壊死し通水障害を起こすことでもナラ枯れが起ります。

そして産み付けられた卵は樹木内で孵化、成長し、次世代の成体となるナラ枯れが起ります。

令和6年度に当署管内で発生したナラ枯れ被害に対しても、被害木が数本と少なかったことから、伐倒後搬出が可能な場所では図2のように伐倒および搬出、最終的にチッ

リナラ菌を体に付着させ翌年の初夏から秋にかけて被害木から飛び出し別の健全なナラ等に移動し穿入することで周囲に被害が拡大します。

カシナガは、親二匹から平均二〇匹の子どもが生まれるといわれており、一年で十倍、二年で一〇〇倍と指數関数的に数が増加していくことから、ナラ枯れ被害の拡大を食い止めるには、ナラ枯れ被害木の早期の発見および防除が非常に重要になります。

ナラ枯れの防除法

ナラ枯れの防除法は、ナラ枯れ被害の程度によりいくつかの種類があります。被害が比較的穏やかな箇所では、被害木の伐倒や樹幹への薬剤注入などの処置がとられ、被害の激しい地域では、伐倒した健全なナラ等を一か所に集めカシナガの誘引剤を用い丸太内にカシナガを誘導し、その丸太をチッパーで処分するおとり丸太法などが用いられることがあります。

場所では図3のように、被害木の樹幹に粘着シートを巻き付け、新成虫の新たな穿入の防止および脱出新成虫の捕獲を行う方法を行いました。カシナガによる穿入は地際から二メートルに集中することから、伐倒処理の際にには、伐根が地表から六センチ以下になるように処理を行いました。

粘着シートを用いた防除では残念ながらカシナガを捕獲することはできませんでしたが、棚倉森林管理署では今後もナラ枯れの調査を行い必要な応じて対策を検討していく所存です。



図2. 被害木の伐倒風景



図3. 粘着シートを巻いた被害木

団体のページ

当機関誌「林業福島」の令和七年一月号に掲載させていただきました「森林を活用した脱炭素社会の実現に向けた連携協定」の内容について、進捗状況を報告します。昨年度は、当公社とENEOS株により「森林を活用した脱炭素社会の実現に向けた連携協定」を締結し、共同作業により令和七年一月三一日にプロジェクト登録申請を行い、「二〇二五年四月一日」（二〇三五年三月三一日までの森林管理プロジェクト）が認証されたところです。

今年度は、登録されたプロジェクト計画書に記載されたモニタリング計画に従い、温室効果ガス吸収量の算定に必要なデータの入手や計測を実施しています。

具体的には、七月～十月にかけて航空レーザ計測及び航空写真的撮影を行うとともに、航空レーザ計測を実施しない一部区域については、昨年度購入した森林三次元計測システムOWLにより現地調査を実施したところです。

これらの調査と併せて、必要なデータを収集し解析作業を行ってCO₂吸収量の算定等を行い、モニタリング報告書を作成する予定となっています。

間伐材のクリスマスツリーを展示しました

当公社では、十二月十二日から二十五日まで、福島県自治会館一階工ントラネスホールにおいて、毎年恒例となっている間伐材を有効利用したクリスマスツリーを展示しました。



た。今年もスギを使い、皆さんに楽しんでいただきました。



公社職員による
森林3次元計測システム
OWLによる森林調査状況

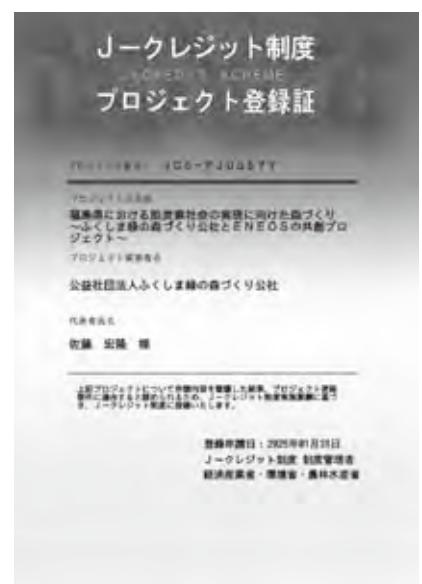
公社だより

J-クレジット共創 プロジェクトの 進捗状況



を進め、令和九年度からはクリエイティブで得た売却益を森林整備に活用し、適正な森林管理と森林資源の充実を図り、森林の持つ多面的機能の長期的な維持を目指してまいりたいと考えております。

具体的には、七月～十月にかけて航空レーザ計測及び航空写真的撮影を行うとともに、航空レーザ計測を実施しない一部区域については、昨年度購入した森林三次元計測システムOWLにより現地調査を実施したところです。



J-クレジット制度
プロジェクト登録証

木の文化を育む⁽⁸²⁾

木と向き合う住まいづくり ～伝統を今に生かし、想いを未来へつなぐ～(有限会社 佐山建築)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子



○はじめに

日本の住まいは、木とともに築かれてきました。木を適材適所に使いたい、気候や暮らし方に合わせてその特性を活かす工夫が、住まいづくりの基盤を形づくってきました。こうした暮らしの伝統と、住まい手一人ひとりの想いを具体的なかたちとして実現する住まいづくりは、木と暮らす伝統を今に受け継ぎ、未来へと継承されています。

○木と向き合う家づくり

有限会社佐山建築（南相馬市）は、木造住宅を中心には、住まい手の暮らしに寄り添う家づくりを続けてきました。東日本大震災後、甚大な影響を受けながらも、岐阜、大阪、千葉、茨城などの市場に足を運び、知識の獲得に励みつつ、県産材の使用にも積極的に取り組んできました。樹種ごとの特性を見極め、設計や施工の過程で適材適所に活かしながら、住まい手一人ひとりの想いや暮らし方に丁寧に向き合い、具体的なかたち

として住まいに反映しています。素材の特性を尊重しながら、人の想いを受け止める姿勢が、長く使い続けられる住まいを支えています。

○三角焼に見る手仕事

佐山建築の焼杉は、伝統的な「三角焼」によってつくられています。一般に流通している焼杉の多くが機械による焼成であるのに対し、同社では三枚の杉板を三角柱状に組み、内側から火を入れ、煙突効果を利用して内側を焼き上げます。この技法は、外装材としての耐久性を高めるために受け継がれてきた伝統的な知恵です。

火加減や焼き具合を見極めながら行う三角焼は、効率だけでは測れない手仕事です。炎と木の変化に向き合いながら進める工程には、素材への理解と経験に裏打ちされた判断力が求められます。こうした伝統的な技法への挑戦も、住まい手一人ひとりの想いに寄り添う中で実現してきました。自然素材であるため、傷や

○体験を通して伝える木の文化

佐山建築では、海外からの留学生や地域の子どもたち（幼児および小、中、高校生）を対象としたワークショップも実施しています。木に直接触れ、五感で感じる体験を通して、完成した建築を見るだけでは伝わりにくい、木の手触りや香り、素材としての変化を体感することができます。

幼児を対象とした「ポンポンづくり」ワークショップでは、カンナがけの際に生じた鉢屑を活用し、鉢屑を杉玉のように丸く成形していくます。木のやわらかさや香り、手仕事ならではの感触を自然に体験できるこのワークショップは、子どもたちの五感を育むと同時に、鉢屑まで余すことなく活用する機会にもなっています。日頃の遊びとは異なる感触に、子どもたちは鉢屑に埋もれて遊んだり、ポンポンづくりを楽しんだりと、大変好評を得ています。

こうした体験は、木を身近な存在として捉えるきっかけとなると同時に、住まいづくりの現場で培われた知恵や技術を次の世代へと伝えてい

斑、割れ、反りが生じることもありますが、そうした特性を理解し、許容できる場合にのみ使用しています。現在のところ、施工後五年を経過し、経年美化を楽しめる建物になっています。

○まとめ

木を適材適所に使い、住まいづくりは、木とともに歩んできた住まいの在り方を現在へと引き継ぐものです。建築という仕事を通して木の文化を暮らしの中で実践し続ける試みは、林業から建築、そして暮らしにと続く木の文化を、現場での実践で、完成した建築を見るだけでは伝わりにくい、木の手触りや香り、素材としての変化を体感することができます。こうした住まいづくりの現場で培われてきた取り組みが、木の文化を今に受け継ぎ、未来へとつないでいく力となっています。



箸作りワークショップに参加する留学生（米・オレゴン州）

県森連いわき共販における木材市況（12月分）

令和8年1月1日
福島県森林組合連合会

(単位：m³当り千円)

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
ス ギ	4.00	9下	12.0	11.5	
		10~13	14.0	13.5	
		24上	14.0	13.5	
	3.65	16上			
		24上	11.5	10.3	
	3.00	9下	11.5	9.5	
		10~13	11.0	10.3	
		14~16	11.2	9.3	
		18~20	13.6	11.8	
		22上	14.0	12.5	
		6.00	16~20	14.1	13.3
	2.00	16上	7.5	6.0	
ヒノキ	4.00	10~13	9.0	8.8	
		14~16	15.5	14.0	
		18~20	17.1	15.2	
		22上	17.1	15.2	
	3.00	16~20	14.8	13.5	
アカマツ	4.80	18~22			
	4.00	18~22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	
	3.00	16~22	10.5	10.0	
		24上	10.5	10.0	

素 材					
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要
カラマツ	4.00	12下			
		13~14			
		16上			
ク リ	4.00	16上	14.0	13.0	
	3.00	16上	13.0	12.0	
モ ミ	4.00	20上			

市況概要と市況展望	1月の共販日
販売量は2,271m ³ （前年同月比118%）でした。 スギ3m柱材、中目材は、ほぼ横ばいを保ちましたが、不落物件が少し出ました。4.00m材は引き合いあり、活発に取り引きされました。4m材（24-32cm、34-38cm）はA材、B材とも需要が高く品薄感があります。 小径材も同じく需要が高い状況です。 造材方よろしくお願い致します。	7日(水) 19日(月) 27日(火)
行事とお知らせ	
1月7日(水) いわき木材流通センター 初市	
県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 検索	

福島県において、三〇年以上も不動の全国トップにあるもの、それが桐の生産量です。特に会津地域における桐の生産は三八〇年の歴史を誇り、簾笥や下駄の生産のほか、琴や琵琶などの楽器素材として極上と評価されるなど、唯一無二のブランドとして確立しています。

実は、現在の県内生産量はほぼ全て会津桐のものですが、社会情勢の変化などにより戦後統計のピーク（一九六六年）からは、五〇分の一ほどにまで減少しており、資源の枯渇が懸念されています。西会津町史によると、かつては村落一軒あたりで六〇~七〇本の桐を植えていたところ、活況振りが偲ばれます。二〇〇〇年代に入って植栽はおろか苗木生産もゼロの時期があり、先人の残した資源に頼りきつた実態がありました。

そんな状況を憂い、また、かつての会津桐の里を復活させるべく活動している団体として会津里山森林資源育成研究会があります。これまで桐玉植苗の生産、植樹祭開催、桐製品開発のほか市町村への桐普及支援など多岐にわたり活動され、発足五年目の節目を迎えています。その中

福島県において、三〇年以上も不動の全国トップにあるもの、それが桐の生産量です。特に会津地域における桐の生産は三八〇年の歴史を誇り、簾笥や下駄の生産のほか、琴や琵琶などの楽器素材として極上と評価されるなど、唯一無二のブランドとして確立しています。

実は、現在の県内生産量はほぼ全て会津桐のものですが、社会情勢の変化などにより戦後統計のピーク（一九六六年）からは、五〇分の一ほどにまで減少しており、資源の枯渇が懸念されています。西会津町史によると、かつては村落一軒あたりで六〇~七〇本の桐を植えていたところ、活況振りが偲ばれます。二〇〇〇年代に入って植栽はおろか苗木生産もゼロの時期があり、先人の残した資源に頼りきつた実態がありました。

福島県において、三〇年以上も不動の全国トップにあるもの、それが桐の生産量です。特に会津地域における桐の生産は三八〇年の歴史を誇り、簾笥や下駄の生産のほか、琴や琵琶などの楽器素材として極上と評価されるなど、唯一無二のブランドとして確立しています。

実は、現在の県内生産量はほぼ全て会津桐のものですが、社会情勢の変化などにより戦後統計のピーク（一九六六年）からは、五〇分の一ほどにまで減少しており、資源の枯渇が懸念されています。西会津町史によると、かつては村落一軒あたりで六〇~七〇本の桐を植えていたところ、活況振りが偲ばれます。二〇〇〇年代に入って植栽はおろか苗木生産もゼロの時期があり、先人の残した資源に頼りきつた実態がありました。

そんな状況を憂い、また、かつての会津桐の里を復活させるべく活動している団体として会津里山森林資源育成研究会があります。これまで桐玉植苗の生産、植樹祭開催、桐製品開発のほか市町村への桐普及支援など多岐にわたり活動され、発足五年目の節目を迎えています。その中



会津桐スノーボードと桐苗
(画像提供：会津里山森林資源育成研究会)



会津桐の広がる可能性

福島県会津農林事務所 藤田 学



年 明 け

表紙の写真



「未来の宝物」

第22回ふくしま森林・林業写真コンクール
最優秀賞（福島県知事賞）
受賞者 広野資郎さん（南会津町）
撮影場所：南会津町（旧南郷村）
コメント：伐採された木材が未来の宝物に見えました。

身も心もひき締まる一月一日早朝である。葉をすべて落とした寒樹の一番上には、スズメが数羽止まっている。少しづつ明らんできた東の空からの光に、スズメの羽毛が柔らかく輝き、元日の朝の寒気に温かみがほんのりと帶びたようだ。スズメの鳴き声は、一年中聞きなれてはいるが、年が改まつた朝に聞く鳴き声は、格別に心地よく、清々とする。

さて、今年の干支は「丙午（ひのえうま）」。丙は、甲、乙の次に入る十干の三番目、そして、子、丑、寅：から始まる十二支との組み合わせから、今年は六〇年に一度巡る干支である。この内も午もどちらも火の性質があり、丙午年は「火の力」を象徴するエネルギーに満ち溢れた年とされている。また、動物の馬からは、スピード、勢いや力強さ、そして、相馬野馬追の勇壮華麗さも思い浮かぶ。清々としたスズメの鳴き声から一変、遠くから一定のリズムで馬の蹄音が聞こえてくるようだ。

そして、一月には元日のほかにいい記念日がある。十四日は、南極でカラフト犬「タロとジロ」の生存が確認された日で「愛と希望と勇気の日」と名付けられている。

清々しさ、満ち溢れるエネルギーそして愛と希望と勇気等々に背中を押されて、思わず一步、踏み出せる条件が整つたではないか。だが、春意を感じる寒明けの日はまだ遠く、自分の内に今年のエネルギーを無理なく、少しづつ貯えようと気構える、その「小さな一步」を確認した年明けである。

編集

発行人
発行

福島県内四島
福島県森林・林業・林管署
福島県森林・林業・緑化協会
福島県農林種苗農業協同組合連合会
福島県木材協同組合連合会
ふくしま緑の森づくり公社
森林研究整備機構福島水源林整備事務所
福島県森林・林業・緑化協会
(福島市中町五番一八号県林業会館内)
飯沼(定価)
光印社
社(株式会社)
宏隆(一一〇円)

第一五二話（都）

お知らせコーナー

第50回福島県児童・生徒木工工作コンクールが開催されました

福島県木材青壯年協会（以下「木青協」）では、子ども達の想像力を伸ばし、木をもっと身近なものにもらいたいとの思いから、児童・生徒木工工作コンクールを開催しています。

県内の21小学校から452点の応募があり、そのうち各校から推薦された68点について、9月19日、いわき市小名浜の道の駅いわき・ら・ら・ミュウで審査会を開催し、次のとおり各賞が決定しました。



○福島県知事賞
第1部「尾長どりの女王様」
いわき市立磐崎小学校
3年 森 妃香瑠



○福島県知事賞
第2部「天空にまうワシ」
いわき市立平第五小学校
6年 安藤 千紗

第50回福島県児童・生徒木工工作コンクール入賞者名簿

	賞	作品名	氏名	小学校名	学年
最優秀賞	福島県知事賞 第1部	尾長どりの女王様	森 妃香瑠	いわき市立磐崎	3
	福島県知事賞 第2部	天空にまうワシ	安藤 千紗	いわき市立平第五	6
優秀賞	福島県教育委員会教育長賞 第1部	くじゃく	大倉 雪	いわき市立赤井	2
	福島県教育委員会教育長賞 第2部	ヤマアラシ	長山 加純	いわき市立小名浜第三	6
	関東森林管理局長賞	大きなドレス	田崎 愛華	柳津町立柳津	5
	いわき市長賞	ミミズクのかよし親子	根本 治明	いわき市立泉北	4
	福島民報社長賞	どんぐり村のガチャガチャ	鈴木 晴陽	いわき市立泉	2
	福島県木材協同組合連合会長賞	くつろいでいるうさぎ	松本 菲	いわき市立泉北	4
	福島県林業会館理事長賞	ヤン	渡邊 光	いわき市立植田	1
	NHK福島放送局長賞	フラガール	平山 心望	いわき市立磐崎	1
	ラジオ福島社長賞	夏の始まり	小山笑里杏	いわき市立勿来第一	4
	福島テレビ社長賞	ハシビロコウとハイギョ	橋本 催杜	いわき市立勿来第一	1
	アクアマリンふくしま賞	森、川、海ゆたかな自然	遠藤 麻姫	いわき市立御厩	3
	福島県木材青壯年協会長賞 第1部	とりのす	丹 清乃	いわき市立小名浜第二	1
	福島県木材青壯年協会長賞 第2部	とんぼ返り	齋藤 柚奈	本宮市立本宮まゆみ	6

設立から61年を迎えた木青協は、多くの子ども達が「木」に触れ、感受性や創造性に富んだ社会人に成長してくれること、そして将来温もりある社会を築いてくれることを願い、これから先も子どもから大人まで多くの人を巻き込んで、「木」の可能性を探し続けて参ります。

（一般財団法人福島県林業会館「フォレスト協賛金」を活用しています。）

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた
損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの
損害



3 水害

豪雨、洪水による
埋没、水没、流失などの損害



4 雪害

大量の積雪による
幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる
枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による
焼損、幹折れ、埋没、
根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》
竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》



◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)



または最寄りの森林組合

林地残材用アタッチメント
グラップルフォーク

GS-90LJF/LJFV

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

- ・フォークが大きく開き、木質バイオマス生産現場での端材の集積に威力を発揮
- ・不要な石を効率良く振るい落とす、格子状のフォーク型トング
- ・手元のノブスイッチだけでグラップルの各操作が簡単・楽に可能

林地残材の集積に威力を発揮するフォーク型特殊グラップル

※本機は林地残材集積用です。起倒、地掘え作業には使用しないでください。

For the future with forest



イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



ISO 14001
認証登録
No. JIS Q 14001
登録番号
JAB
JAPAN
ASIA
BOARD



JAB
JAPAN
ASIA
BOARD



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区泉中央1丁目16-6

TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699

(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1

(支店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中四国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>

ZENOAH®

人と共に 緑と共に

For Professional

BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

For Professional

GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc

ZHM1550RR
刈幅：1500mm 出力：27.5kW

SR3100
破碎径：200mm 出力：18.4kW



ハスクバーナ・ゼノア(株)福島県代理店
(有) うねめ林業機械
TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1